

1322931: 美術研究科 博士課程

キーワード: パフォーマンスアート, リレーショナリズム, 空間環境,
観客の関与, 現代美術, 社会的コメント

サリーナ・サタポン: Performative Spatial Dynamics: Dialogues in Self
and Collective Consciousness

指導教員: 今村祐作, 藤原信行, 毛利嘉孝, 小沢剛

絶えず進化する現代美術の中で、パフォーマンスアートは動的で影響力のあるメディアとして登場し、伝統的な美術の規範に挑戦し、創造的表現の境界を押し広げています。「Performative Spatial Dynamics: Dialogues between Connection and Dislocation in the Nexus of Self and Collective Consciousness」と題された研究プロジェクトでは、パフォーマンスアートに内在する広範な可能性を探求します。本研究では、人間の存在、空間環境、時間的次元の相互作用を調査し、芸術的革新の新たな道を切り開くことを目指しています。

本研究で提示された作品は、アイデンティティ、存在の一時性、人間と環境の関係性などのテーマを探求しています。これらの作品は、建築的探求、マルチメディアプレゼンテーション、没入型のパフォーマンスなど、さまざまな技法を用い、観客に周囲の環境と深く関わり、個人と環境の複雑な相互作用を熟考するよう促しています。

結論として、本研究プロジェクトはパフォーマンスアートの多面的な領域を探求し、その進化、理論的基盤、および現代社会に対する影響を検証します。革新的な技法や概念に取り組むことで、本研究は芸術と日常生活の深い結びつきを強調し、観客と作品の間の意義ある対話を促進します。この研究はパフォーマンスアートの理解を深めるとともに、絶えず進化する現代美術の中で新たな探求の道を示します。